

# えんちょう先生の わくわくだより

H29. 12. 7 NO. 19



絵本はまだ見ぬ世界に  
こども達を連れて行って  
くれます。子どもの頃の  
絵本は、かけがえのない  
心の教科書です

寒さが一段と厳しくなってきたこの頃ですが、こども達は朝から、園庭を飛び回り、体を動かして元気に遊んでいます。12月に入って年少、年中さんは保育参観、懇談会が終り、年長さんは12日となっていますね。11月から各部屋で取り組んできた劇をお家の方に見て頂いていますが、それぞれの年次らしい劇を、みんなで協力しながら作り上げていく中で、こども達のいろいろな姿が見えてきました。言葉も気持ちも発達途中のこども達。成長の個人差も大きいです。時には、はずかしくてもじもじしてしまったり、ふざけてばかりを注意されたり、それでも「やる時にはやる！」を合言葉に作り上げた劇。お母さんやお父さんに目の前で、見て貰う当日は、張り切っているこども達の様です。運動会には、体を使った取り組みでこどもを伸ばし、又、こうした室内の取り組みでは、みんなと協調し、自分の弱さや恥ずかしさを乗り越えて、みんなで作り上げる喜びを知っていきます。こどもは、沢山の経験の中で、自分をゆっくりつくりあげて行くものです。こどものいい所を沢山見つけながら、園と家庭とで見守っていきたいと思います。お家のみな様には、お仕事の都合を付けて頂いての平日の参観日、本当にありがとうございます。

## ぜんちゃんふあーむの吉村善次郎さんから、 こども達のおやつに沢山のブドウを頂きました。



岩村町富田にある、「ぜんちゃんふあーむ」は、三森さんを源流とした川が流れていて、上流に工場や産業廃棄物処理場もなく、安心して食べられる農産物です。・・・と頂いたパンフレットに書いてあります。この日は、緑の「シナノスマイル」と赤い「高妻」と言う名前の高級なブドウを頂き、こども達は「おいしい」「おいしい」とたらふく食べました。後にも先にもこんな美味しいブドウをこんなに好きなだけ食べられた事はありません。吉村さんには、本当に感謝です。もし、行かれる事がありましたら、お声掛け下さいね。



# 冬の夜は、親子で絵本を！



絵本で伝わる  
保育・子育ての  
エッセンス 58



大豆生田 啓友  
玉川大学教授

4歳児のサトシ君は「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」(バージニア・ア・リー・バートン文・絵 村岡花子訳 福音館書店) Ⅱ写真Ⅱが大好きでした。「ぼく、この絵本が好きなんだ」と私の所に持ってきた日のことを、今でも鮮明に覚えています。

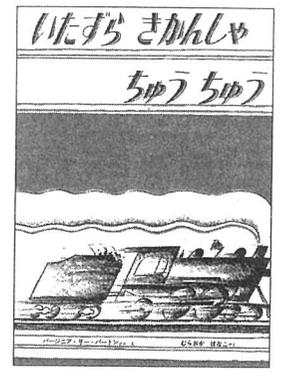
この絵本は、かわいい  
はこう考えました。重い  
客車がなければもっと早  
く走れ、みんなの注目を  
浴びることができると。  
そして、彼はそれを実  
行しました。小さなちゅう

## トラブルも大切な経験

サトシ君は、体の小さな子どもでした。電車や恐竜が大好きな彼は、豊かな自分の世界を持った子です。でも、他の子が何か言う、つい黙ってしまうことがよくありました。友達の前では、なかなか自分の思いを出せなかったのです。

最近では、けんかやトラブルは未然に防ぐことが一般化される傾向があります。でも、ちゅうちゅうのトラブルも、サトシ君のけんかも、自分の世界を広げ、他者とのより良い関係につながる子ども時代の大切な経験と考えるのは、無理があるでしょうか？

次回は11月6日付掲載



機関車ちゅうちゅうの冒険物語です。彼はいつも客車や貨車を引いて走って行きます。ある日、彼

ある日、彼は友達と言い争いになりました。普通は無視し、全てを振り切って走り抜けていくのです。でも、周りには大迷惑を掛けています。トラブルを起こしたちゅうちゅうは反省しますが、温かく受け止めてくれる周囲の姿も印象的で

ある日、彼は友達と言い争いになりました。普通は無視し、全てを振り切って走り抜けていくのです。でも、周りには大迷惑を掛けています。トラブルを起こしたちゅうちゅうは反省しますが、温かく受け止めてくれる周囲の姿も印象的で

でも、けんかをすぐに止めなかったことについて、保護者にはとても嫌な思いをさせてしまいました。その時、当時の副園長は、私の思いを含めて丁寧に保護者に話をしてくださり、とてもありがたかったです。